論 文 の 和 文 要 旨

氏 名 小 谷 究

（博士論文の題目）

日本におけるバスケットボール競技の戦術の変容過程に関する研究（1913～1943）

（博士論文の要旨）

本研究は、1913（大正 2）年から 1943（昭和 18）年の日本におけるバスケットボール競技の戦術に関して歴史的考察を加えたものである。

本研究で検討した結果は以下のように整理される。

1913（大正 2）年、Franklin H.Brown が来日したことを契機として、日本のバスケットボール競技は本格的に普及・発展をしはじめる。当時のバスケットボール競技の主要な大会が行われた東京 YMCA の体育館は 1917（大正 6）年に開館され、この体育館に設置されたコートのゴール間の距離はかなり短いものであった。この体育館は、1923（大正 12）年の関東大震災で崩壊し、1927（昭和 2）年に増築落成したが、新しく設置されたコートも狭いものだった。また、明治神宮競技大会は外苑競技場のアウトドアコートで行われていたが、このコートもやはり狭いものであった。その後、1933（昭和 8）年に当時のルールで規定された理想的なサイズのとることができるコートが明治神宮外苑相撲場に新設され、このコートの新設をきっかけとして、日本の大規模な大会のほとんどがルールにおいて理想とされたサイズのコートで行われるようになった。

このようにコートのサイズが変容していくなか、1910 年代末期から 1920 年代初期の日本では、4 人でのオフェンスと 4 人でのマンツーマンディフェンスが行われ、1920 年代初期にはスリーパー・オフェンスが採用された。当時国内で行われた主要な大会では、ゴール間の距離が短いコートを使用したため、スリーパー・オフェンスが有効性を発揮できる条件が整っていた。

1924（大正 13）年頃には、日本に 3-2 ゾーンディフェンスが紹介された。当時のコートは狭く、滑りやすいものであり、また当時の主要な大会が開催された東京 YMCA の体育館が、コーナーからシュートを打てない構造であったことから、3-2 ゾーンディフェンスは有効に機能し、またたく間に全国に広まった。この戦術の普及に伴い、スリーパー・オフェンスは採用されなくなっていった。

その後、3-2 ゾーンディフェンスはハイポストプレイの採用、コートの拡大、3-2 ゾーン

ディフェンスをチームに浸透させられる指導者が少なかったことにより、5年ほどの間にほとんど採用されなくなっていった。代わって1926（大正15）年頃から国内では、ファイブマン・ツーライン・ディフェンス・マンツーマン・バリエーションを採用するチームが現れはじめた。しかしながら、この戦術が求める役割は各ポジションに与えられた役割と一致しないという欠点を有するものであったため、多くのチームが採用するようになったのは、マンツーマンディフェンスの一種であるファイブマン・ツーライン・ディフェンス・ゾーンディフェンス・フォーメーションであった。

一方、オフェンスではピボットの導入、指導書によるアウトサイドスクリーンの紹介、マンツーマンディフェンスの普及により、アウトサイドスクリーンが普及した。1933（昭和8）年には、スクリーンプレイを用いた戦術であるバリーシステムが日本に紹介されて急速に広まったが、バリーシステムの多様なバリエーションのうちごく一部しか採用されず、3秒ルールによる制限、ミドルシュートやピボットの技術の未熟さにより、定着することなく、1936（昭和11）年にはあまり採用されなくなった。その後、日本ではフィギュア・エイトが採用されるようになった。フィギュア・エイトは、2つのバリエーションをもって用いられたことと、マンツーマンディフェンスが普及していたことにより、有効性を発揮することができた。

また1930年代には、ドリブル技術の向上、ゴール間の距離の延長、5人でのオフェンスの普及、ルール改正により、スリーレーン・ファストブレイクが採用されるようになった。さらにこの頃の日本では、マンツーマンディフェンスが多くのチームに採用され、ゾーンディフェンスを採用するチームはほとんどなかったが、ゾーンアタックの衰退、スクリーンプレイやファストブレイクの採用により、1930年代末頃からゾーンディフェンスを採用するチームが現れ出し、1940年代初期にはゾーンディフェンスが主要なディフェンス戦術のひとつとなった。

このように競技移入後の日本では、バスケットボール競技が活発に行われ、戦術が変容してきたが、1937（昭和12）年に日中戦争が勃発し太平洋戦争へと突入していくと、戦火の拡大と共に、それまで活発に行われてきたバスケットボール競技はしだいに下火となっていった。1943（昭和18）年には文科系学徒徴兵猶予停止の命令が下り、ボールを銃にかえ勇ましく出陣する学徒兵が相つぎ、バスケットボール競技は時勢とともに姿を消した。

以上において示したとおり、今日用いられているマンツーマンディフェンス、ゾーンディフェンス、スリーレーン・ファストブレイク、スクリーンプレイが、すでにこの時期までに日本において導入されていたことが確認され、それらバスケットボール競技の戦術が、ルール、施設、用具、技術、指導者といった様々な要因に影響を受けながら変容してきた様子が明らかになった。